

【台湾ドルの動き】

2025 年 7 月の台湾ドル (TWD) は、対米ドルで上昇基調を続け、月初には一時 1 ドル = 28.8 元台まで上昇するなど、約 3 年ぶりの高値を記録しました。主な要因は、米国の利下げ観測や貿易協議の進展に対する期待からドルが弱含んだこと、台湾株式市場への海外資金流入、輸出企業によるドル売りが挙げられます。また、台湾経済の堅調な成長も追い風となりました。ただし 7 月中旬以降は、台湾大手企業の配当金支払いや、米国による台湾製品への関税率の不透明感が重なり、外資のドル買いが進んだことで一時 1 ドル = 29.4 元台まで反落しました。中央銀行はこの変動を抑えるため市場介入を実施し、為替の安定を図ったと見られます。7 月末時点でも台湾ドルは年初来で対米ドル約 12% の上昇を維持しており、全体としては強い通貨基調が続いています。

【米国との相互関税について】

アメリカ政府は 7 月 31 日、台湾に対して課す関税率を 20% とすることを発表しました。一方、台湾の行政院は 4 日、相互関税に関するアメリカとの交渉はなお継続中であり、条件が確定後に報告する考えを発表しました。なお、4 月の時点で公表していた関税率は 32% でした。

【中国籍者の台湾定住要件について】

内政部は、中国大陸地区の出身者が台湾に定住する際に中国のパスポートを放棄したことを証明する資料を求める規定の改正案を公表した。現状においても中国戸籍の喪失を証明する資料の提出は求められるものの、戸籍喪失後もパスポートを引き続き保有し続けるケースがあることに対する対応としています。

フェアコンサルティング台湾

(正緯管理顧問股份有限公司)

台北市松山區敦化北路 167 號 11 樓 C 室 宏國大樓

電話 : +886-2-2717-0318

担当 : 坂下 (SAKASHITA)

yu.sakashita@faircongrp.com

2024年2月1日 台中オフィスがオープンしました。

台中オフィス : 台中市西區台灣大道2段285號4樓之2

「FCG 中華圏 ニュースレター」本文の内容の無断での転載、再配信、掲示板の掲載等はお断りいたします。

「FCG 中華圏 ニュースレター」で提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。

フェアコンサルティンググループでは、できる限り正確な情報の提供を心掛けておりますが、「FCG 中華圏 ニュースレター」で提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、フェアコンサルティンググループ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。